

2008年「力」の発揮の年



「写真の町」東川町長

松岡 市郎

新年明けましておめでとうございませう。

今年から新たな町づくり計画5カ年がスタートします。団塊の世代が生まれた戦後が第1次ベビーブーム、25年程度経過した1975（昭和50）年前後が第2次ベビーブーム、そして第3次ブームは2000（平成12）年ごろにやってくるはずでした。しかし、新生児は一向に誕生上

昇の兆しがなく、漸減傾向が続いています。深刻な少子化の到来です。

持続する基礎自治体としての機能を確保するためには、一定の人口が必要です。診療所、幼児センター、学校などの維持には住民が減少していつては成り立たないのです。そこで今回の計画では、今後の町人口の目標をおおむね8千人としました。

「この人口減少の時代に人口増加とは現実的ではない」等の声も耳にしますが、黙って待っていたのでは減少の一途です。人の誘致が最重要課題となっているのです。

計画の名称を「プライムタウン（PRIME TOWN）づくり」と命名しました。直訳すると「最高の町づくり」となります。

「個性（Personality）」

新春の想像



東川町議会議長

浜辺 啓

全町民の皆さまに謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も恙無（つつがな）く元気で夢に向かって邁進（まいしん）できますように…。

平成も二十年を迎えました。激動の「昭和」から「平成」の御代へと希望を託し名付けられた元号も成人を迎えたわけですが、その願いとは裏腹に一向に平穏な日々はやってきま

せん。

他の国から見れば「日本は平和で安全で経済大国で…」と良い国に映っているのかもしれない。「日本人は平和ボケしている」といわれるゆえんでしょう。しかし私たちは「町をあげずか」立場からは「戦国の世」であります。

地方はあまりにも無策な国政に翻弄（ほんろう）され、行政スリム化という大儀の前に「自立だ」「合併だ」と右往左往し、住民不在の経済論だけが優先し、そこに「人が生きていく」という血の通った議論がありません。ひるがえってわが町の議会をみると、同様に合理化（簡素化）、経費削減論が先行しています。議員定数削減、報酬等の問題について町民の皆さんから「議員自らがせよ…」という意見が聞こえてきます。しかしこれでは

ty）」「理性（Reasonability）」「自立（Independence）」「意義（Meaning）」「永続・楽しさ（Eternity, Enjoyment）」の頭文字を取って「PRIME（プライム）」とし、「町（Town）」の（Of）」「福祉（Welfare）」「自然（Nature）」の頭文字を取って「TOWN（町）」としたものです。

つまり「個性、理性、自立、意義のある施策により永続し楽しさ」のある「福祉と自然の町」づくりを目指すというものです。厳しい財政事情ではありますが、計画を実現するための原動力は「協力・連携力、知力・気力・行動力」です。前例踏襲ではなく、自ら道を開拓する力、目標に向かって挑戦する力、チャンスをつかきとものにする

議会機能の決定責任を、まるで議員個人の責任だけに委ねているように聞こえかねません。

議員定数にせよ、報酬にせよ、地方自治への参加、責任は、町民の皆さん一人ひとりが固有にお持ちのものであります。みなさん（選挙民）と一緒に考えて決めるべきものと私は考えています。当然、選ばれた者としての権利、義務、責任が重いことは言うまでもありません。

アメリカ第三十五代大統領、ジョン・F・ケネディの言葉を思い出します。

「国が何かをしてくれるかではなく、国のために何ができるかである」。

昨今、近隣の方から「東川は元気があっていいよね」という言葉をよく耳にします。

それは新聞、雑誌、テレビ等でよく話題になるからでしょう。

力を十分発揮する職場づくりが、町の活力向上のベースになると考えております。

今年も職員とともに住民福祉の増進に向かって頑張る決意を新たに、町民の皆さまに年頭のごあいさつを申し上げます。



第11回 東川百景より「たかーい！たかーい！」岡本 淳さん撮影

そのことは種々のジャンルの人たちが、そして若者が頑張っていることにほかなりません。

自分の町に誇りを持ち、自慢できる町が確立できれば、合併の論議は無用の長物です。

「小さくても輝いている町」。それを認めない国や議員がいるならば変えればよいのです。われわれの権利なのです。そうしなければ国は滅びます。そしてわが町も！

多少辛らつな発言になりましたが「自分たちの町」は自分たちで守りつくりあげていくという思いでつづらせていただきます。

さて、二〇〇八（平成20）年は「新町づくり計画」が動き出す年です。ともども大いに議論を重ね、今年もみんな頑張ってくださいませう。